

## 令和5年第10回教育委員会会議録

日時：令和5年9月26日（火）

午前10時開会

場所：教育委員会室

出席委員	委員	西口晶子
	委員	富田昌平
	委員	田村学
	委員	山口友美

出席者	教育長	森昌彦
	教育次長	小宮伸介
	学校教育・人権教育担当理事	伊藤雅子
	教育事務調整担当参事（兼）	
	教育事務所調整担当参事・教育総務課長	家城 寛
	教育推進担当参事（兼）学校教育課長	松本 幸也
	学校教育課幼児教育課程担当副参事	村木 美智子
	津城跡整備活用推進担当副参事	松尾 篤

教育長 令和5年度第10回の教育委員会を開催いたします。本日の議案の概要説明をお願いします。

教育次長 おはようございます。本日の議案でございますが、議案第35号 津市教育委員会点検・評価について、議案第36号 令和5年度津市教育功労者表彰についての2件でございます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。内容については、それぞれ担当課長から説明いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

教育長 本日の議案は、お手元の事項書のとおり、議案第35号及び議案第36号の2件です。そのうち、議案第35号及び議案第36号の2件につきましては、津市教育委員会会議規則第16条第1項第4項の規定に該当するため、非公開としたいと思っております。よろしいでしょうか。

各委員 (異議なし。)

教育長 それでは、議案第35号及び議案第36号につきましては、非公開と決定いたします。

議案第35号 津市教育委員会点検・評価について

議案第35号 非公開で開催

議案第35号 原案可決

議案第36号 令和5年度津市教育功労者表彰について

議案第36号 非公開で開催

議案第36号 原案可決

<以下非公開>

教育長 それでは、非公開議案の審議に入りたいと思います。議事に入ります。  
議案第35号 津市教育委員会点検・評価について事務局から説明をお願いします。

教育総務課長 議案第35号 津市教育委員会点検・評価につきまして、御説明申し上げます。お手元の点検・評価報告書につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、それを議会に提出するとともに公表することが規定されております。その規定に基づきまして、津市教育委員会におきましても、平成19年度分より作成し公表しております。今回の対象年度は令和4年度で、16回目となります。それでは、点検・評価報告書の1ページ目を御覧ください。はじめにとしまして、令和4年度の点検・評価に当たり、まず、これまで津市教育委員会が推進してまいりました施策の概要について、示しております。続きまして、2ページからでございますが、2の目的としまして、事務の点検・評価は、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを目的とすることを表記し、3の学識経験者の知見の活用でございますが、地教行法第26条第2項で、教育委員会は点検及び評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する方の知見の活用を図るものとする規定されておりますことから、元津市立小学校長でいらっしゃる荻原くるみ様、元三重短期大学長で現在津市男女共同参画審議会会長でいらっしゃる東福寺一郎様、現在、三重大学名誉教授で津市文化振興審議会会長でいらっしゃる山田康彦様、以上3名の学識経験者の方々を選定させていただきまして、8月2日水曜日及び8月25日金曜日に点検・評価説明会を開催し御意見を頂戴いたしました。頂戴した御意見につきましては、後ほど御紹介をさせていただきます。続きまして、3ページでございますが、4の点検・評価の対象でございます。教育振興ビジョン前期基本計画の各施策を対象としまして、各所属が令和4年度における具体的な取組内容・成果を自ら評価するとともに、各施策の達成目標に対する令和4年度実績と達成度を示して、点検・評価を行いました。その実施の方法につきましては、5の点検・評価の実施方法のとおり、◎、○、△、×で評価を示し、目標値については、AからDの達成度で示すこととしました。4ページから57ページにわたって各所属が整理をいたしまして、更に学識経験者の方々による評価に基づきまして一部修正を加え、現在の報告書を作成したものでございます。最後のページ、79ページになりますが、事務の執行に関する評価として事業別の決算額と執行率を表記しまして、執行率が8

0%に達しなかった事業については、その理由とともに表記をさせていただきました。最後になりますが、学識経験者の方々の評価を交えた御意見につきましては、58ページから69ページに掲載をさせていただいております。頂戴しました主な評価の内容としましては、評価書が、教育振興ビジョンとの整合性が図られ、これまで以上に具体的に記述され、進捗状況がわかりやすくなり、教育振興ビジョンという教育計画の達成を目指して、その到達点や課題を明らかにするという点検・評価の性格が鮮明になったという御意見でありますとか、コロナ感染症拡大の影響の中、感染対策をとりながら、教育委員会としての確かな判断、対応を行い、予定されていた多くの事業の実施を進めてきたことを評価いただきました。一方、健康教育、食育の推進では、食と健康は児童生徒の生きることと直結する問題であるので、教育委員会だけではなくPTAや他部署との連携の必要性、次なる支援も必要であるというような御意見でありますとか、教員に対する人力的支援については、教員が子どもと向き合う時間が大幅に増加はしているものの目標には足りていないので、スクールサポートスタッフ等を充実させ、教師の本務である子どもと接する時間をさらに飛躍する施策を進めること等の御意見をいただきました。また、報告書の具体的な取組内容の成果について、◎の確実な成果を上げることができたと、○の一定の成果を上げることができたの評価の違いが、記述内容からなかなか読み取れないところもあるというようなことも御意見いただきまして、課題等についてしっかり記入することで、◎と○の評価の妥当性を判断しやすくなるのではないかと御意見いただきまして、一部修正を加えさせていただいております。以上のような御意見を踏まえまして、報告書として整理をさせていただき、本日の教育委員会で御審議いただきまして議決いただきましたら、市議会に提出するとともに市のホームページへ掲載を行っていく予定でございます。以上で説明を終わらせていただきます。御審査のほどよろしくお願い申し上げます。

教育長 説明は以上です。御質問等はございませんか。

田村委員 口火を切ります。先ほど報告で山田先生の御指摘のところってというのが、これは前からずっと流して行って私見せていただいても、特に○になった項目について、直してはいただいたんでしょうけど、◎と○の違いがまだ同じような印象。項目によってはそれがきちんと分かるような記載がされているっていうのがあったんですけども、例えば自分で思ったのが、40ページの保護者の保育参加などの表現だと、後段のところ、令和4年度は感染症対策を講じているものの行事の縮小などにより保護者の保育参加の機会が減少した。これを捉えて◎まではいかなかったっていう評価にしたんだなっていうのが分かるんで

すけど、戻って6ページの園児児童の交流活動の充実っていう項目を見ると、少し省略しますけれども、子どもの姿を中心に捉えた話し合いを行ったところの枠で、今後はと書いてあるだけなんですよね。この間に○になった理由があるんじゃないかなっていうふう感じた。この流れの中で最大の評価が付けられなかった課題は、今後はそうなんだろうけどっていうところが、○になっている項目で大半がそういうふう感じたんです。少しワンランク落とした理由っていうのが、これでは読み取りづらいなっていうふうに思ったところが、逆に○になった理由が読み取れたところのほうが少なかったっていう印象がありますので、少しその辺どうかなって思いました。

教育総務課長 ありがとうございます。確かにこの◎と○の評価につきましては、それぞれ担当者の思いとしまして、成果を上げたもののまだまだ本人として納得がいかないような部分が、◎ではなくて○に現れているような部分も多々あるかと思えます。御指摘いただいたような部分というのはごもつともかと思えますので、少しその辺り課題と捉えている部分が、こういった報告書の中でしっかりと表記できるのであれば、そういった形でご覧いただいた方が分かりやすいような形で、改められるようなところは改めてさせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

田村委員 限られた紙面の中で短い文言にいかにも落とそうかという難しさ。ごめんなさいね、分かった上で言わせてもらっているつもりなんですけれど。フラットに読んでみると、多分、担当者としては少し課題の部分とか、目指していた所に届かなかった所があるから、○になったと思われるんですけど、そこが書かれてないなという印象が。大体○の項目を追っていくと、そこをきちんと書いていただいている所が少なかったりするのがありますので。

教育長 他どうでしょうか。西口委員。

西口委員 実は、私も山田先生のこの御意見からその所の所がすごく気になって、やはり取組内容・成果の中に課題が入っている項目と入っていない項目があると。例えば、私が気付いたのは9ページの人権教育カリキュラムの実践と検証は◎ですけれども、一番下に、より多くの教職員が授業公開を参観し学び合える体制づくりが今後の課題であるという課題が、わざわざ書いてあると。◎なので、例えば、課題としての◎というよりは、その課題であるという部分を抜いて、そこから5行目辺りに授業公開及び教職員研修を位置付けることにより下の、より多くの教職員が授業公開を参観し、具体的な実践を通してというふうにして、課

題の部分を抜いたらどうなんやろうなというふうな感じがしたんですが。来年に向けて、取組内容・成果とそこへ課題を付け加えていくのなら、それで今後はっきりしていくかなと思ったんです。一緒の所、そこ感じました。課題っていうのが、わざわざ課題が下に書いてある部分が他にも何か所かあって、この課題がこういう課題としてあげておくほうがよいのか。私は〇でも課題があるっていうのが気にもなったし、田村さんと一緒の意見になります。以上です。

教育長 どうでしょうか。

田村委員 ピンポイントで自分が気になったところもう1つ。28、29ページなんですけれど、28ページの真ん中の教職員研修講座の充実。これは◎。満足度調査でも98.7パーセント。肯定的な回答を得られたとなっているんですけれど、一方では、実際に参加回数見ると、大きく下回ってD評価になっています。ここに少し違和感を感じたんですけれど、講座が充実して目標達成したけれど、教員一人当たりになると一人一回は参加してないという実態。

教育長 学校教育・人権教育担当理事。

学校教育・人権教育担当理事 これについては、評価の説明会の方でも御質問があったんですけれども、実際コロナ禍でしたもので、オンラインでの研修会ということになりました。コロナ禍以前ですと、集合研修で人数を数えて、一人当たり何回かというふうなことで目標を立てておったんですが、コロナ禍でしたもので、オンデマンドで、先生達の都合にいい時に見ていただいてもいいような形に工夫をして、常時eラーニングポータルとかに研修内容を上げておいて、先生たちが見に行くと。そこに行っていたいただいた方の人数とかカウント数が分からない状況がありますので。沢山の研修会というのは充実させていただいて、先生方としては、おおむねその自分が行かれない研修っていうのが実施はされたんですけれど、人数としては、参加していただいた研修がオンデマンドになりましたので、その辺りの一人当たり何回研修していたかというのが、少し把握できていない状況であるということです。

教育長 田村委員。

田村委員 取組として捉えようがない。ですから、この0.9回の裏に隠れている部分がいっぱいあるということね。

学校教育・人権教育担当理事 オンデマンド研修とかZ o o m研修とかそういうものなんです。

田村委員 であればその辺、このページの余白いっぱい空いていますし、少し注釈か何かを入れていただいた方がいいんじゃないですかね。

西口委員 私もそこが気になって、新しいビジョンの59ページにちゃんと注釈が書いてありますので、それを持ってきて入れた方がいいと思いました。評価の下にそういうことがきちんと書いてあるので。ここですよ。これがそのままこうなってきた、こういう数字になったということは、やはりこれを見ない人がいますから、きちんとそこは入れておくべきだという同意見です。

学校教育・人権教育担当理事 ありがとうございます。

教育長 山口委員。

山口委員 ほとんどが◎と○の評価になっているんですけど、これは毎年と言いますか、そういった物をやや成果が低いということ。点検・評価なので今年度したもの、終わった1年間の評価ということで評価されているんだと思うんですけど、◎と○の中で何か考えようとする所で、こういうふうにあいまいにされてきているのか。あと、今後も施策として続けて行こうと思うという意欲とか継続性を考えて点検・評価をされているのか。もう少し、この4つの評価の区分的な意味合いを教えてください。お願いいたします。

教育長 教育総務課長。

教育総務課長 点検・評価の判断基準につきましては、3ページの所に掲載をさせていただきまして、昨年から少し見直させていただいたのは、例えば、この○の表記などは、去年までは現状維持という表現の中で書かれていたものがあるのですが、その現状維持が果たして△なのか○なのかというような議論の中で、あまり分かりにくい表記は改めていこうということで、一定の成果をあげることができたというような表記に改めてさせていただいております。教育振興ビジョンを対象に評価をさせていただく中で、令和4年度が、たまたまではありませんけれども、前期計画の最終年度に当たりますので、こういった施策をずっと続けてきた中で、毎年同じ施策を評価してきますので、そういった中で、△であったものが○になり、◎になるといった形で、評価が段々上がってきた結果が令和4

年度には現れておるのかなど、推察するところではあります。また、次年度は後期計画の初年度の評価になってまいりますので、そういったものは、まだ計画がスタートして初めての所ですから、改めて評価したときに△であるとか、場合によっては、×はないものやと思っておりますけれども、そういった低い評価のものが出てくる可能性もあろうかとは思いますが。

山口委員 なるほど。そう思っていたのは、最終年度の最終的なところで改めて評価が◎と○に。

教育総務課長 少し偏ったところはあるかなとは思いますが。いいことやと思うのですが。はい。思っております。

山口委員 注釈のところもこういった書き方をされていらっしゃるということですかね。

教育長 教育総務課長。

教育総務課長 御指摘いただきましたその注釈の話でありますとか、そういった部分を御覧いただいた方が、やはりその妥当性が判断できかねる部分というのが、ところどころ見受けられると思います。全体的なフレームの形は、ある程度、形ができてきたかと思っておりますので、その評価の基準でありますとか、評価に当たっての記載内容であるとか、例えば、△以上は必ず課題を表記するであるとか、同じ評価の施策の中での◎と○の評価ですから、メリハリをつけた記載内容にするということは、今後ははっきりと表せられるように取り組んでいきたいと思っております。

教育長 よろしいですか。山口委員。

山口委員 いろいろ問題整理できていないところがあるんですけども、それよりも、まず、5ページなんですけども、幼児教育の教員の資質向上のところの3つ目、幼保相互派遣研修等の継続実施ということで、評価が◎となっております。これ令和3年度は31人あって、令和4年度は29人ですが、ここのこの1日やっていくことが◎と言っているけれど、◎でいいのかなということと、それからその中の文章の記述なんですけれども、1行目の本市の就学前教育の充実に向け、幼稚園と保育所、認定こども園が連携を図るため、何をした結果どうできたというのを。図るため理解を深めることができたというこの表現はおかしいの

で、図るために何をして、例えば相互の派遣研修を継続して実施し、互いに理解を深めることができたかなのか。何か、「図るため」の後に、何をしたかということが1つ欲しいなということと、◎でいいのかなということが気になりました。というのは◎で下がCなんですよね。割合が54.5%でCなんです。これは互いに、目標とこれとは別だと思うんですけども、これがCで上が◎でというのが少し気になりました。まず、1か所目はここです。続いて、14ページ、15ページなんですけども、人権教育のところ、子ども人権フォーラムの充実ということは、充実してきているということで、◎というくくりになっていて、15ページの実績については、やっぱり充実はしてきているけれども、自主的な活動が行われているのはCであるというふうに判断してもらおうというのは、別にこういうことはありだなということを思ったんです。15ページの保護者や地域住民を対象とした人権研修の実施の、なお、という文章の段落があるんですけども、なお、令和4年度は津市PTA連合会からもPTA人権研修会の発信をし、行政に対して積極的に実施した。どこが実施したのかということで、もう少しここは詳しい記述が欲しいなということを思いました。それから、42ページです。地域とともに進める教育の3つ目、地域との連携による子育て支援の充実というところなんですけども、新型コロナウイルス感染症対策のため未就園児の会を実施できない園もあったが、6園は地域の保健センターや子育て支援センターとの情報交換を実施したりしたと書いてあるんです。で下へ来ると、目標で、未就園児の会を行った会は1園というふうにして、Dという評価になってきて、これは指標に対しての評価なのでいいんですけども、これをその上のほうへ行くと○になっているので、ある程度は実施したということなのですから、実施できない園もあったがというのじゃなくて、例えば、地域の子育て支援センターと連携した未就園児の会を実施できない幼稚園は1園であった。しかし、ほかの6園では、というふうに、上の1園あったらというのを、1園でも上に入れてあげてもいいんじゃないかということも思ったりしました。その次、43ページなのですが、放課後児童クラブの未設置校の目標が6校区が4校区になってきて、あと4校区、未設置校あと4校区なので、進んでさらにいって4校区になったということで、Aという考えでいいでしょうか、という質問でございます。55ページなんですけども、文化財の保護のところ、右側の、54ページは全部十分達成できたので◎がついているけれど、55ページなのですが、市内の指定の登録文化財の数が440件で435件、そしてBになっているのですが、実は新ビジョンに出ている数字との違いがあって、これは精査した結果こうなのかなという感じがするんですけど、新しいビジョンの99ページには数字がきちんと出ていて、令和4年は441件。それから、旧明村役場は4,000人というふうになっているんですけども、それで言うと、令和3年度の文化財が43

3件だったんです。で、これが435件、2件増えただけで、去年はこの項目、Dだったのに、いきなりBに上がっていいんですかという質問です。以上です。

教育長 村木副参事。

幼児教育課程担当副参事 55ページの幼保相互派遣研修等の継続実施についての評価についてです。図るために何をした結果というのが抜けておりますので、これに関しては、また修正していきたいと思えます。◎なのは、派遣研修については、コロナ禍だったんですけれど、継続的に実施しておりまして、人数的には31人から29人に減っているんですけれど、園数が減った分の人数の減で、ずっと計画的に完全実施できたということで、◎と評価させていただきました。この達成度のCは、その下の公開保育実践研究会への積極的な参加のところで、これはやはり回数的にパーセンテージが低かったということでCの評価をしたのと、○評価にさせていただきました。ただ、実際の公開保育、積極的に、人数としては少なかったのですが、幼児教育アドバイザーとかが園内研修等に入って、保育園、幼稚園、こども園の連携を深める上には中身の充実をさせていただいたということで、○にさせていただきました。5ページについては、以上です。42ページの地域との連携による子育て支援の充実についてです。実績が1園にはなっているんですけれど、回答の解釈の違いということがありまして、中身のところを、もう一度、聞き取りを行ったところ、6園が地域連携と子育て支援を行っておりまして、残りの13園が行っていなかったということで、13園あったということ、また表記させていただきます。そのため○になっております。

教育長 どうぞ。

事務局 43ページになりますけども、放課後児童クラブの未設置校区。こちらは目標としては未設置校区を6まで減らそうという目標であったのが、さらに目標以上に4まで減らすことができたということで、6割る4は1.5で、150%ということで、A評価ということになっております。

教育長 松尾課長。

生涯学習課長 先ほど言われました55ページでございますけども、まず、下の明村役場の人数については3,668人、令和4年の実数値になります。上の文化財の登録の数なんですけども、この点検・評価の数の方が間違いで、ビジョン

に書かせていただいている441件が実数になりますので、こちらが正しい数値となります。大変申し訳ございません。

教育長 どういうことか。確認してもう一回言って。

生涯学習課長 この文化財の指定・登録文化財数なんですけども、435件なのなんですけども、登録文化財の数が入ってなくて、441件が正しい数字になります。

教育長 村木副参事。

幼児教育課程担当副参事 42ページの地域との連携を保つ支援の充実ですが、達成度と中身の記述の数値に整合性がないということで、改めて検討させていただきます。申し訳なかったです。

教育長 どういうことか。最初やったらそれでいいけど、最後のところでそれはないと思うし。

田村委員 僕も読んでいて同じことを思って、取組内容の成果と評価のところでは、素直に6園でやったって読めるんですよね。ところが下で1園です。5園どこいったのかという、そういうことですよ。

教育長 副参事。

幼児教育課程担当副参事 42ページの、つまり、なぜ1園だったかということで、訂正させていただきます。記述のところを修正させていただきます。

教育長 どっちか。

幼児教育課程担当副参事 記述のほうを。

教育長 記述というのは上の文章のところか。

幼児教育課程担当副参事 はい。文章のほうです。1園ということで訂正させていただきます。

教育長 6園が1園なんか。

幼児教育課程担当副参事 はい。

西口委員 私は、1園というのは未就園児の会を1園だから1園かと思ってたんです。あとの6園は、情報交換を行ったり、地域の子育て支援センターではないけれど、三重大と連携をしたのは6園ありますよというふうに、合わせて6園ありますよと言っていたんです。だから、やっている質が違うのかなと自分では思っていたんですよ。

幼児教育課程担当副参事 そのとおりで、解釈の違いがありまして、例えば、三重大連携でしている園があったりとか、保健センターを呼んだ園があったりとか、いろいろな地域の連携の仕方の解釈が違うところがあって、結局は、未就園児の会をまるっきり実施できないところも、コロナの影響で確かにあったんです。実際、6園何らかの形で行ってはいったんですけど、地域との連携というところで1園という数が出てきたので、内容的にはおっしゃるとおり、未就園児の会を実施していたということは、聞き取っております。なので、6園のところは、何らかの情報交換も行ったりはしておりました。

教育長 待って。未就園児の会ってどういう定義なんか。例えば、三重大とかと連携しておいたのは、未就園児の会とは違うんじゃないのか。未就園児の会というのは、各園で、例えば部屋とか取って、未就園児の会を定期的に何回かやっているというのが、未就園児の会と違うのか。

幼児教育課程担当副参事 そうです。各園が定期的に未就園児を集めてするのが。各園独自でやっているのが未就園の会なんですけど、その中に、例えば三重大の学生さんが一緒に入って、連携しながら未就園児の会を行ったりというのが。

教育長 それは未就園児の会やんか。だけど、そうじゃないのものも何か含めて、どうのこうのみたいに言っているから、おかしくなってくるんじゃないのか。ここは、そもそも未就園児の会11とは書いていないんです。地域との連携による子育て支援の充実ということで書いているのに。未就園児の会は、その中の一部じゃないのか。

幼児教育課程担当副参事 一部です。

教育長 だから、そこの捉え方がぶれているから、こんな話になってくるんじゃないのか。

田村委員 よろしいですか。今のやり取りを聞かせていただいていると、私の解釈としては、あくまでも限定的に地域の子育て支援センターと連携して、未就園児の会をやったのは1園でした。けれども、ほかに三重大学と連携したり、市の保健センターと連絡したりして取り組んだ園が5園ありましたよってことじゃないんですか。

幼児教育課程担当副参事 そういうことです。

田村委員 じゃあ、そう書けば。いろんな要素をひっくるめて6園っていうふうにし算しちゃったから、少し難しくなっているの、交通整理すればいいのかなと思いました。

学校教育・人権教育担当理事 15ページお願いします。人権のところは、PTAとの連携で研修会をしたっていうので回数を書いてあるんですけども、それについては、PTAと連携をさせていただいて、PTAの部会であったりだとか、それから各学校の単Pのところへ行って、要請があったところなんですけども、訪問させていただいての人権研修をしておりますので、もう少し詳しくその辺りの内容を追記をさせていただく方向で、何らかの記載をさせていただきます。ありがとうございました。

田村委員 細かい文章上の趣味の問題かもわかりませんが、6ページの相互参観、事例検討会等の実施、ここに令和4年度はということで、小学校区で授業参観、小学校区で保育参観、小学校区で事例検討会、これ全部に小学校区って頭につける理由があるのかなって。まとめれば、もっとスッキリした文章になるのにな。小学校区、中学校区とか変わってくるなら、あれなんですけど、全部小学校区だったので。趣味の問題。

教育長 小学校区で授業参観、保育参観、事例検討会を行ったって言えば。

教育総務課長 ありがとうございます。

田村委員 あと、また細かい話なんですけど、37ページです。学校給食施設の

整備。また以降なんですけれども、一志学校給食センターのことが書かれています。次の文節で、また一志学校給食センターにおいてって、これ2回断る必要があるのかなというふうに思います。別の所やったっけかと思って前に戻ったら、両方一志学校給食センターやんっていうふうに感じたので、読みにくいなっていうだけです。

教育長 よろしいか。わかってもらえましたか。よろしいですか。

富田委員 全体的に書きぶりも評価の見方も、よりわかりやすくなったなど思っ  
て見させていただいたんですけど、やはり所々、経年変化ってどうなっている  
んだろうっていうふうに読むと、気になるころがあつて。中にはICTを活用  
したとかいうようなところとか、令和元年度はこう、2年度はこう、というふう  
に書かれているところがあるんですけど、全部が全部、経年変化を書いていると、  
大変な情報量になるので。報告書として正しい書き方わかりませんが、たま  
に、ある種アピールポイントっていうか、なんかコラム的な感じで取り出して、  
経年変化のグラフなんかがあるといいのかなと。市民が読むっていう読者のこ  
とを考えると、何かしら、津市として今年からこういうことを取り上げたんだっ  
てというのが、ブレイキングニュースみたいな感じで少しコラム的に取り上げら  
れていたらどうかと。あるいはトピックスみたいな感じで「実はこの話題につ  
いては過去5年間、5年前こうだったんですけど、5年間かけて重点的に取  
り組んだ結果、このようにいい成績まで上がっているんですよ」みたいなことが、  
こういう余白部分を利用した、あるいはこの目標の大きなカテゴリーの終わる  
ところにあたりとかすると、読み物としては非常におもしろく読めるって  
いうか、わかりやすくなつて思ったりもしました。あともう1つは、荻原先生  
の意見のところと山田先生の意見のところにも触れられてたのが、子どもの読書、  
図書館機能のそういうところですね。私事なんですけども、うちの下の子どもが  
今年中学生になって、それぞれ中学1年生、3年生なんですけども、中学に上  
がった途端、読書量がぐんと減るんですね。これは子どもたちがICTを活用し  
てタブレットに触れる機会が増えていって、中学生になると子どもに塾の送り  
迎えの連絡みたいな感じで、スマホを持たせるようになる家庭かなり多くつて。  
うちもそのようにした結果、スマホに触る機会が非常に増えて、それによつて本  
当に本を読まなくなつたっていうのが、今現在、我が家での取り組むべき課題な  
んですよね。どのようにしたら、子どもたちが前のように本を読むようになるの  
か。世間一般的には中、高、大学生の読書量の激減っていうのは非常に問題にな  
っているとは思うんですね。中学生になった途端、本を読まなくなっている。こ  
こでもやはり家庭との連携で、幼児期に本とか借りて本に触れるとか、あるいは

生涯学習の視点から、一般市民が図書館をうまく使ってもらってというふうなところはあるんですけども。やっぱり、中、高、大学と、その辺が抜けている感じがあって。そのことは学校図書と公立図書館の連携を深めていくっていうのがすごく大事なところかなと思うんですよね。その意味で言うと、学校図書の司書さんって津市にどれくらいいるんだろうって少し気になる場所ですし、学校図書の司書と図書館司書とが、普段から研修等で話題をいろいろ共有したり、問題意識を共有して何か取り組むようなことって、どれくらいやられてんのかなっていうことも、少し気になった場所です。私自身も、以前勤めた大学では図書課長っていうのを務めさせていただいて、図書館の司書の研修なんかに何度か参加したりとかあったんですけども、全国的にみるとかなり先進的な取り組みを、学校図書の司書と図書館司書との連携において、やられているところもいくつかあったりします。やはり子どもの読書の問題っていうのは、ICTを活用した教育の推進の一方で、衰えていくところに焦点をあてて、そこをどうやってきちんと維持活性化させていくかっていうことは、問題意識として持っていく必要はあるのかなというようなことを、改めて意見等を読みながら思った場所です。以上です。

教育長 ありがとうございます。

学校教育・人権教育担当理事 図書館の図書館司書については、各中学校区に1名配置をさせていただいております。人数として各中学校区、20校になるんですけども19名で、1つ香良洲と南が丘が、一小一中のところを併用という形になっておりますので、19名配置をさせていただいております。あと、図書館の司書との連携なんですけれども、これ以前から、図書館司書の研修会っていうのが年内で何回かあるうちの1回か2回を、津市の図書館の司書との交流というか、そこから講師に来ていただいて、いろんなことを情報交換したりとか、お話しいただいたりとか、そういうことをコロナ禍前まではしておりました。コロナ禍で一旦それが中断いたしまして、今後も連携をとということで話を進めさせていただいて、たぶん今年はさせていただく方向で、不確かなんですけども、聞いてはおるような状況でございます。今いただいた御意見を担当課にお伝えさせていただいて、実施していきたいと思っております。ありがとうございます。

富田委員 年1回っていうのは、講師さん呼んで、一緒に話を聞くっていう場が保証されてるっていうだけですか。

学校教育・人権教育担当理事 年数回、学校図書館の司書研修会はあるんですけ

ども、その数回のうち1回を、津市の図書館の司書さんとの交流というか、あと三重短大のほうの図書館の担当の方に来ていただいたりとか。そういったところの外部の図書館司書さんとの交流みたいな。情報交換で出会ったりとかいうようなところをさせていただいているという話です。

教育長 家城教育総務課長。

教育総務課長 富田委員がおっしゃっていただいた経年変化の部分につきましては、そもそも点検・評価は、過去から前年度の決算の評価というようなことをずっと続けてきました中で、これまでも点検・評価すること自体が目的になってしまっておるような所がございました。これを何とか振興ビジョンの進捗に生かせないかなというようなことで、今のフレームなりを考えさせていただいた経緯がございます。当該年度を評価しつつ、これまでの進捗を併せて評価するというような形で、上段の評価の所と下段の達成度の所が、うまくかみ合っていないような御指摘もあるのかなというふうに思っております。そういった中で、経年変化を例えばグラフ的なもので視覚的に表していくというのは、非常にわかりやすいのかなと思いますので、ちょっとそのあたりも次年度以降、ぜひ検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

教育長 西口委員。

西口委員 読書のことで、実は、今、富田委員に言われて、53ページの読書活動の推進というところの一番下の段なんですけど、お話し等のイベントやPOPづくりコンテストについて多くの参加をいただいているが、中高生に向けた啓発などがあまりできておらず、具体的には学習指導を利用する中高生にももっと本を借りてもらおうようにするなどが課題であるというのが、この部分が気になっていたのです。でも、今、お話を聞いていて、やっぱり中学生からそんなに読書をするのが減ってくるというようなことがあるならば、ここにわざわざ津市の図書館がこうやって書いてくださっているの、ここをちょっと来年は大事にしながら。私がここを読んだときは、イベントのPOPづくりだけに中高生が少ないというふうに捉えていたのですが、もっと広い意味でやはりここをこのことを大事にしてほしいなということを、改めて、今、お話を聞いて思いました。もう一つ、荻原先生とそれから東福寺先生がちゃんと文章に書いておられるのが、やはりジェンダーギャップという辺りで、男女共同参画の視点ということ、やはりこれはどこにも評価表には出てこないんですけども、この部分を常に私たちは意識して、すべての教育活動、あらゆる所でこの視点というの

を常に持っているということを、あえて発信していかなければならないなということを改めて思いました。

教育長 田村委員。

田村委員 30ページをお願いします。施策達成目標の実績のところでは、東福寺先生がコメントの中で触れられている、令和3年度21時間が大幅に増えて60何時間。これ富田先生が言われた時系列がこの評価の中にないので、いい評価だけでもすごく伸ばしてきているというのが伝わらないな、残念だなんて思いながら見ていました。先程見ていたら、これ前期の目標の令和4年度ってこれ65時間ですか。計画書では50時間となっているみたいなの、だと思いましたが。前期計画で53ページ、後期では62ページに載っていますけど、いずれも令和4年度の目標値50時間/年。

教育総務課長 そうですね、すいません。

田村委員 そしたら、Aですよ。目標。

教育総務課長 すいません、50時間ですね、おっしゃるとおりです。

教育長 令和4年度一人当たりが50時間。

教育総務課長 50時間を目標に掲げておりましたので。

教育長 50か。

教育総務課長 50時間ですね。

教育長 それが63.6になったのか。

教育総務課長 はい。評価のAですね。

西口委員 目標が違っている。

教育総務課長 はい、目標が違っております。

田村委員 この65時間というのがどこから出てきたかはわかりませんよね。これ後期作った時の実績見込みが65時間になっていますね。たまたま見つけたもので、他にこんなものがないかしっかり見ておいてくださいね。さっきの文化財の関係とか指標の分子分母のある数字は。

教育長 よろしいですか。じゃあ、ちょっと自分から何点かいいですか。まず、中学生の読書なんですけど、これについては、子ども読書推進会議でもよく出るんですよ。中学生になると急に減って、中学生も別に図書館教育をないがしろにしているわけではないです。ただ、今、富田委員が言われたように、中学生になるとスマホを持つということもあるし、何よりも劇的に子どもらは忙しくなります。今まで小学校で読書に使っていた時間が、部活であったりその他いろんな活動に非常に忙しくなるので、そこはある程度やむを得ないのかな。これは津市に限ったことではなく。ただ、明らかに、中学生、高校生、大学を含めて、その間の、例えば図書館の利用カードを持っている人の数であったりとか、来館者数も含めて明らかに明確なデータとして、少ないというのはいろんなところではっきりしています。なので、今はどんな議論をしているかということ、図書館をもっと変えられないかなというふうな議論。例えば、この前も議論させてもらった亀山市の図書館に行かせてもらったのもその一つであるし、この前、図書館協議会だったか、子ども読書推進会議で話させてもらったんですけど、僕、敦賀へこの前行ったときに、今度、敦賀が北陸新幹線の終着駅になるということで、駅前開発がすごくされていて、その中に本屋さんなのか図書館なのかわからないような官民一体となった図書館、本屋の施設ができていて、そこには気楽にお茶を飲みながらであったり、あるいは子育てのための絵本のそういったスペースがあったりして、すごく素敵な図書館なので、ぜひ敦賀へ行ってください。米山さん、また行くわって言っていましたので。そんなふうな施設とか、亀山もそういった小さな子どもたちとか、そういった勉強する子たち。そういった若い子どもたちがたくさん入ってくるような作りになっていたりとか。今、津市の図書館を見ていると、例えば、3階のあそこの踊り場のスペースには、子どもたちがいっぱいいるんですよ。図書館にはなかなか、でも、図書館も実は結構いっぱい入っていて、でも、どちらかというと、勉強しに行くというのが多くて、本を読みに行くというのが少ないということなので。その辺いろいろな議論をして、その読書をとという視点は、今も言われましたけど、非常に大事にしていかなあかんとことかなっていうふうに思いますので。次年度以降、ここの今、書かれている読書についての記述については、特に意識して取り組んでいかなあかんことかなというふうに思います。それが1点です。それから、最初に出ていたのは、課題について書くか書かないかというか、どうするかというあたりのことなんです

けど、自分はここの評価は、◎が確実な成果を上げることができた、○は一定の成果、で、確実な成果を上げて課題はやっぱりあると思うので、そこをどうするかかな。捉え方で、◎とかやっぱり確実な成果になりますので、○は一定の成果なんですよ。だから、パーセント入れたら◎は9割、8割超え、○は一定の成果は少しそれより下がるくらいのイメージだと思うんですけど、数値化していませんけど、そこを踏まえたうえで課題を書くかどうか、というあたりで。そこを読んだ側は、課題が書いてあるのに◎かと思ってしまうけれど、そのあたりをうまく、いやいや、そうではなくて、やはり課題があっても、こういった一定の確実な成果を上げる中でも、やはり課題はあるんだみたいな。ちょっとその辺の記述の仕方とかを工夫すると誤解は避けられるかな。僕は、課題はあると思うので。いずれにしても、やはり課題はあってしかるべきだと思うので。そこは一つその辺がうまく◎と○の中でどっちも僕は書いていいと思ったけど課題をうまくかけるといいなと思います。その辺はまた調整していただくということで。最後に、これはまた来年の視点なんですけど、この点検・評価のときの教育委員会は、課長は出てほしいなと思ってますね。全課長。次長、理事では十分ではないという意味じゃないですよ。そうじゃなくて、聞いてほしいなと思って。ここでもっといろんな課長がおったら、もっといろんなことをおっしゃっていただけるかなと。今日はみえないので、やはり伝えておくっていうのと、直接聞かれるのは大分違うので。点検・評価の最後の教育委員会をこうしてやっていただけるとは、すごく大事な場だと思います。ぜひ来年度は、普段は、関係ない人はいいいとは思いますが、他にもあるかもしれません、こういうふうな全体に関わること。少し狭くなりますけど。できるだけ課長さんに出てもらったほうがいいかなと思います。また、来年度もよろしく願います。ごめんなさい、少し喋ってしまいましたけど、他よろしいでしょうか。

田村委員 お礼ですけど、去年に比べて、ペースを早めていただいたと思うんです。私が、年度末にやっているようでは、次年度施策の予算要求にも生かせないじゃないですかっていうのを踏まえていただいた上での日程かなと思います。ありがとうございます。

教育長 本当にこれは教育総務がしっかりやってくれたり、全体をしっかりやってくれたとか。ということで議案35号については、原案どおりというか、言っていたいただいた意見を、一部修正を加えていただいて承認ということでよろしいでしょうか。

各委員 (異議なし。)

教育長 それでは、御異議なきようですので、議案第35号につきましては、一部修正を行いました上で承認ということでお願いをいたします。次に、議案第36号 令和5年度津市教育功労者表彰について、事務局から説明をお願いします。

【非公開】

教育総務課長 説明

生涯学習課長 説明

各委員 質疑

生涯学習課長 説明

教育長 それでは、議案第36号につきましては、議案どおり承認してよろしいでしょうか。

各委員 (異議なし。)

教育長 それでは、御異議なきようですので、議案36号については原案どおり承認いたします。以上で本日の案件は全て終了いたしました。それでは第10回教育委員会はこれまでとします。ありがとうございました。

一同 ありがとうございました。